

じゃりみち

……仮設支援情報……



第33号 発行日 1997. 1.6

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL: 078-578-6921 / FAX: 078-578-6923

E-mail: ngoteam@mb.osaka.inforeb.or.jp

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

あけましておめでとうございます！

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

あっつっつっつと言う間に1997年です。(去年も言った気がします) もうすぐ震災も2年を迎えようとしています。去年はいったい何が出来たのかな?とひそかに思い返しています。各団体さん風邪が大変流行しています。無理をせずに体調に気をつけて下さい。

さて。今月は非常に忙しく、じゃりみちが少し不規則になります。2月からはきちんと出せると思いますので、ご了承下さい。

今回のじゃりみちは年末年始特集です！

年末年始は去年に続いて各団体さんが活動をしました。一部分の団体さんしか今回はお載せする事は出来ませんでした。各団体さんのスタッフやその団体さんに参加して下さいましたボランティアの方に感想を聞きました。



もちつき、甘酒。

12月30日、須磨区南落合仮設でおもちつきの手伝いをしました。青空が広がりとても暖かい日になり、40人あまりのお年寄りが集まり、汗びっしょりで「もちつき」ががんばりました。来年も(1997年)この勢いでみなさんががんばって欲しいと思いました。

仮設住宅でお正月を迎えた人たちにあたたかい甘酒のプレゼントをと週末ボランティアのメンバーと共に西区内の仮設住宅を訪れました。

三味線や、沖縄民謡、韓国太鼓もやり「にぎやか」なひとときを過ごしました。

今年もコミュニティ作りを一緒に手助けしていきたいと思います。

ファミリー神戸 内田・師橋

1997年1月4日、2度目の元避難者の方々と、元ボランティアの同窓会が鷹取中学校で行われました。鷹取での思い出話や近況報告に花が咲き、終始笑顔の人々もいれば、当時を思い出し、涙する人もいました。

神戸から離れ、以前の生活に戻っている元ボランティアたちでも、“何が出来たことはないだろうか”と心はいつも神戸に向いている人々が多いことも、改めてわかりました。神戸に足を運ぶことは、以前ほど出来なくなりましたが、私にとっていつまでも神戸は大切な、思い出の多い“第2の故郷”でもあります。

あの震災を風化することなく、以前よりも輝いた夜景と、それに負けない人々の笑顔に再開できるのを楽しみにしています。

ーがんばろう、神戸ー

心はいつも……。

poco a poco鷹取 藤田 尚子

未使用 てれびおんかーど、く・だ・さ・い♡

2年目の仮設住宅

私は、正月といっても、1月2日から神戸へ来ましたので、年末のもちつきや、年越しそばなどの行事は、参加していませんでした。“正月”という色のある活動はしなかったのですが、年初めの日常活動を行ってきました。

私のした活動は主に仮設住宅の訪問でした。実は昨年私は神戸におり、やはり訪問をしていました。昨年の訪問時は、行く先々で一人っきりで年を越す老人や独り暮らしの方たちと出会いました。あの頃は、子どもも親戚の人も、自分たちの生活で精一杯だったからではと、今私は思っています。

そして今年。私は再び、同じ所を訪問しました。あるところでは親戚一同で正月を祝っており、ある人は私たちをととても懐かしがってくれました。また、今まで震災について何も話さなかった人が、あの95年1月17日の地震当日の状況をもらしていました。あの頃は、マスコミも、震災から1年目ということで、過剰に騒ぎだてていたこともあったのですが、全体的には落ちついていて、昨年とは違って“新年”も祝えるほどの余裕を感じました。

しかし、その反面ある仮設住宅では、年始に病院・各施設・店も休みで、3日間何も食べられなく、緊急入院した方もいました。まだまだ、油断できない状況です。しかし、昨年より確実に何かが変わったことを感じる事ができたと思います。

SVAボランティア 谷口 博己

12月31日には高倉台第一仮設住宅（須磨区）と、御旅仮設住宅（兵庫区）で年越しそばを、1月1日、2日は御旅仮設住宅でおせち、雑煮、ぜんざいを実施しました。

おせちに関しては、近隣の方々のご好意でご家庭で作られたのをも一品ずつお裾分けしていただいたことで、色とりどりのおいしいおせちがそろいました。そして、時間の空いたときには、住民の方にゲームを教えてもらったり、お茶を飲みながら雑談と、楽しいひとときを過ごしました。

3日間を通して仮設住宅の方たちからいただいた声としては、「こんな楽しいお正月は初めてだ」「今年は、家で一人でじっとしてなくてもいいんやナ」とか、「ボランティアってはじめはうつとおしかったけど、2年たっても続けてくれて…ほんまありがとう」など。

誰でも一人はさみしいですよーね…。

私たちも、この3日間で見えてきたことを軸にして、“できること”をもう一度考えてみようと思います。

ただ一つ、3日間ともふれあいセンターに来られなかった方の原因も見えてきたので、只今、悩んでいます…。

Project 1-2 有光 るみ

できること。

年末は色々なイベント（もちつき、年越しそば、年忘れの会など）を行い、忙しい毎日でした。世の中が楽しければ楽しいほど淋しい人にはよけい淋しさが増します。私たちはイベント以外に本来の訪問活動も地道に行いました。

ささやかな「やすらぎ」が降りそそぐことを祈りつつ、新年を迎えました。

姫路心のケアネットワーク 岸岡 孝昭



人ってすごい!!

結集した人の力ってすごい!! 一人じゃなんにもできないけど、各人の力が集まれば、これだけのことができるって、改めて実感した。全国津々浦々から若者が集まって、それぞれの思いを込めた活動を行う。

きっと後でこういう活動が活かされる日がくることを信じてる。だから神戸のみんなにも、希望をもって生きていてほしい。

これからも、少しずつ少しずつ、前へ進んでいけたら… 神戸のみんなと共に。

R. M.

仮設住宅ごとにその雰囲気が違うなと思った。生活感があふれている所とか、自治会がある所、ない所とかなど、環境・居住・人数・土地・交通と、あらゆる要因の中で生活していくのに、各々個人の満たされない思い、不平不満がたくさんあり、それを少しでも聞き入れていこうとするけれども、住民の思いにそえるような期待はなかなか応えられない。

だけど、続けていくことで、少しずつでも、わかってもらえるんだと思った。西宮浜で会ったNさん。見も知らぬ私に“プロジェクト結ぶ”のバッチをご覧になり、声をかけて下さった。「ご苦労様やなあー」って。そういう一声があるから「私も頑張ろう」って思えた。

R. M.

うれしかった、悲しかった…。

仮設住宅に行ったとき、ひとり暮らしのお年寄りが多いのか、ポストにチラシを入れたあとに出てきた人もいました。さびしそうに顔を出して声をかけてくれました。

あまりボランティアの行かない仮設なのでしょうか。

T. K.

今日、（炊き出しで年越しそばを作り、仮設住宅の方々へお渡しするとき）何度も、「よいお年を…」を言いました。仮設住宅の方々も、「おいしかった」とか、「よいお年を」という一言、言ってくれてうれしかったです。

S. K.

海がすぐそばの西宮浜は、風が寒そう。そんな中でもお花を育てたり、きれいなリースを家の外にかざったりしているのを見ると、人の底力や、元気に生きようとしているエネルギーを感じる。

K. Y.

神戸で新年を迎えるのは2回目。

以前は全く関わりのなかったK O B Eは第2のHome Townとなった!!

プロジェクト結ぶ ボランティア T. O.

神戸にいる私から大阪の友達へ

新年あけましておめでとう。年賀状を出さなかったのを代わりにこれを送ります。

くだらぬことが書いてあるので読んでみて下さい。

今回、神戸に行く決めて君にもいろいろとボランティアの説明をして、自分の足も神戸に向かっていたのに、心の中では行けば惨めになるんじゃないかと信じていた。でも、深刻なくせにずうずうしいから、銭湯でお湯をかぶって鏡で自分の顔を見ると、嬉しそうな自分がいた。「戻ってきた」と呟く。

1月7日の予定を繰り上げてもっと早く帰ろうかと思っていたんだが、やらなくちゃならない仕事があった。震災2年目を迎えてのイベントの準備に今は追われる。長野に帰るのをもう少し先に伸ばそう。

それでは、また会う時までお元気で。さようなら。

ちびくろ救援ぐるうぷ 小野 将英

「ボランティアをしたいんですけど。」

去年は12月のうちに50人以上申し込みが来た。

今年は3~4人。…う〜ん……?。

仮設NGO事務局 山田 光

うひ、踊る。



ふきちゃんのキャラバン日記

プロジェクト結ぶ（ゆう） 石井布紀子

3回目の1月17日をどう迎えようかな？ その6

西宮市の5ヶ所の仮設住宅内のふれあいセンターでは、『市民とNGOの「防災」国際フォーラム』の一環として、市民文化祭を催すことになっており、16日の木曜日から18日の土曜日のどちらか1日、住民の方々とボランティアグループ、行政の方々が一緒になって出合いの場を作ろうとしています。「復興を市民の手で」というフォーラムの趣旨を実現させたくて、ここ数カ月ほど私たちのグループ「プロジェクト結ぶ」でもコツコツと準備を進めてきました。

「どの仮設住宅でも、手作り品の展示にバナー、炊き出し、相談窓口の設置をしたいね。」という気持ちにこだわってみたところ、様々な方の協力を得て、なんとかいい場が生まれてきそうな気配です。いくつかのボランティアグループは、日常の活動に近い方法でそれぞれ運営に関わって下さいます。また、当日のボランティアさんも募集中ですが、年末に関東から来て下さった方が、「また来ます」と申し出て下さったり、震災直後の救援活動に来て下さった方が、「いい機会なので、久しぶりに被災地に行きます」という連絡を下さったりと、なんだか楽しい同窓会のようなノリで、少しずつひと集まり始めました。住民の方も協力も大きく、「みんなで作ろう」という気運が芽生え始めているように思います。

まだまだギリギリ当日まで、準備を重ねていく予定ですが、なんとか市民の「生の声」をメイン会場に届ける役割も果たしたいなあという気がしています。ここ数カ月、個別訪問の機会を増やす努力も続けてきました。すると、様々な問題に気づかされます。「あと数十歳若ければ、借金も考えられるかも知れない。でも、今さら難しい。せめて家だけを何とかして下さったら、贅沢は言いません……。」などの生の声の報告や、「この仮設住宅に住んでいる人たちの一覧名簿を持つ人はいないそうです。世話人さんや自治会長さ

ん、民生委員さんもどこに誰が住んでいるのかを正確に把握できていない。黙って引っ越してしまう人も多く、協力体制を作りたい人が苦勞しています。名簿公開にプライバシーの問題があるのはわかるけど、このまま放っておいていいの？」などのボランティアさんの実感を、このままにしたいはありません。

もともと、「市民の手で復興計画を作ろう」という主旨で始まった防災フォーラムです。「前向きな改善策を模索する場が必要である」という実感が、文化祭の準備や訪問を重ねる中で生まれています。当日、メイン会場での10のテーマによるシンポジウムから、どんな「市民の手で作る復興計画案100」が生まれてくるのでしょうか？

みなさんは、今回の防災フォーラムにどんなイメージを描いていらっしゃるでしょうか？気軽に参加できるプログラムが豊富なお祭りムードのイベントであることは間違いありませんが、それだけでもないのです。被災者の手作り品の展示コーナーなどには、ぜひ皆さんにご覧頂きたい作品がたくさん並びます。けれど、ただそれを見るだけでなく、それらを集めるプロセスでわかってきた被災者の方の暮らしの現実について、一緒に考えてゆければと思います。

「みんなのまちをみんなの手でどんなふうに住っていきけるのかを考え、議論し、わかりやすく表現してみる場。」被災地ならではの提案を全国に向けて発信するチャンスが、この防災フォーラムなのです。

どうか皆さん。この場にどんどん参加して下さい。地元の人間だけでなく、全国から異なった立場の方が加わって下さることで、より充実した内容の復興計画案が期待できることでしょう。気軽な参加を心待ちにしております。

1月11日（土）13:00～ 防災フォーラム事務局隣のフレスコにて
フォーラムボランティア説明会!! 詳しくは事務局細川まで。 078-578-6921